
名も無き花

gautyo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名も無き花

【Nコード】

N5072F

【作者名】

gauty o

【あらすじ】

名も無い花が一人の絵描きの少女と出会う。少女の描いた花が脚光を浴びたとき、花と少女は本当の優しさを知る。

その花は道端に咲いていた。

名もない小さな花だった。

毎年、この季節になると真っ赤な花を咲かせていた。

花はただ咲いていた。

誰かに特別愛でられることもなかった。

ただ、咲くことが習慣であるかのように咲いていた。

だから時には踏みにじられ、その花を無意味に散らしたこともあった。

ある年のこと・・・

花は一人の少女と出会う。

少女はその花を見ると、何かに囚われたようにスケッチブックにその花を描いた。

少女は来る日も来る日もその花を描いた。

少女はその花をとても気に入っていた。

少女が描くその花は生きる力に満ち溢れ、赤は燃えるように鮮やか

だった。

花は自分の色を知らなかった。

だから自分がどれだけ美しいか、知る由もなかった。

そんなある日・・・

少女の描いたその花の絵が脚光を浴びた。

少女の描いたその花は、瞬間に多くの人々の知るところとなった。

人々は名もないその花を「奇跡の花」と絶賛した。

少女のおかげで花は手厚く保護されるようになった。

花はうれしかった。

自分が人々に愛でられることが幸せに感じられた。

しかし・・・

花は心無い一人の男によって刈り取られてしまった。

男はその花を自分の好きな女性にプレゼントしようとしたのだった。

「どうせまたすぐ咲くさ。」

男は安易に考えていた。

しかし、彼は知らなかった。

その花は切り取られると、再び花をつけるのに長い年月がかかることを……

翌日、花を描きに來た少女は途方にくれた。

自分が愛した花が無残に切り取られていたことに深い悲しみを募らせていた。

「ごめんね。ごめんね。」

少女はまるで自分が罪を犯したかのように、繰り返し謝り続けた。

花は分かっていた。

この少女に罪はない。

しかし、花には少女を慰める術がなかった。

花は生まれて初めて神に祈った。

「私のこの気持ちを彼女に伝えたい……」

花の祈りは神に通じた。

神は少女に一言だけ気持ちを伝えることを許した。

花は考えた。

今、自分のために泣いているこの少女に何を伝えたいか・・・

しかし、出てくる答えは一つだった。

花は少女に語りかけた。

「お嬢さん・・・」

少女は花を見つめた。

そして花は万感の想いを込めてその一言を伝えた。

「ありがとう」

少女はその言葉を受け取ると、大いに泣いて花を抱きしめた。

・・・月日は流れた。

少女は大人になり、子供を授かっていた。

「あ、お母さん！見て！」

幼い少女は母の手を引いて指差した。

その先を見た母親はにこやかに、優しく微笑みながら呟いた。

「おかえりなさい。」

真っ赤な花が風に揺られて咲いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5072f/>

名も無き花

2010年10月11日04時47分発行